

<単元・題材名等>

視野を広げて
「説得力のある構成を考えよう スピーチで社会に思いを届ける」

ねらい

相手を説得できるように理論の展開を考えて話の構成を工夫することができる。

主なICTの活用方法

- ・協働学習支援ツール（ロイロノートの思考ツールで構成を考える。作成した構成メモを送付し合っ
てアドバイスする。）
- ・検索サイト（提案の根拠となる資料を検索サイト
で探す。）

ICT通じて育成する資質・能力

- ・思考ツールを活用して構成を考えることで、相手
を説得させる話の構成を工夫することができる。

実践の概要

教科横断的な学びとして、総合的な学習の時間でテーマとしている「ふるさとに生きる」と関連付けた実践。総合的な学習の時間では、故郷の魅力を発見するとともに、さらにより町となるよう提案する（町長と語る会）ことを計画した。そこで、国語科では、「町長と語る会に向け、自ら考えた提案のスピーチをより説得力のあるものにするためには、どのような話し方ができるのか」を単元の課題として設定した。

本時の導入では、相手意識、目的意識をもちながらスピーチの構成を作ることができるよう、スピーチの相手や目的を確認する。また、提案の根拠となる理由をどのような順序で話すとよいのか、聞き手を引き付けるのは、どのような工夫ができるのかを視点として提示する。展開では、説得力があるのか確かめながら、スピーチの構成を、タブレット端末を活用して考える。終末のふりかえりでは、仲間に構成の意図を話したり、評価をもらったりすることで、理論の展開を考えたい構成のよさを実感することができるようにする。

生徒の学びの様子

- 構成を考えるにあたって、自主的に思考ツール（クラゲチャート）を使って考える姿がみられた。提案の根拠となる理由に順位付けをしたり、補足したりするなど、説得力が増す構成を考えることができた。
- 提案の根拠として、資料不足を感じた生徒は、自主的に検索サイトを使って、情報の収集を行う姿がみられた。
- 構成がある程度出来上がった生徒は、自主的にカメラ機能を活用して自らのスピーチを撮影し、客観的に振り返っていた。自己評価の結果から、さらに説得力を増す構成の在り方を考える姿がみられた。



指導のポイント

- 思考ツールを活用することで、より説得力が増すよう、内容のまとまりを入れ替えたり、追加したりするなど、様々な話の構成を試しながら考えることができる。
- 生徒の個々の活動の進度によって、検索サイトを活用した根拠となる資料の補足や、カメラ機能を活用した自らのスピーチの客観視をするなど、一人一人の願いに応じる活用が可能となる。